

③ 看護用品や技術についての配慮

看護用品……看護を合理的に能率よく、効果的に行なうために、無駄な出費をしないで、しかも必要なものがもれなく、手近にそろえられているように、専門的な立場で眺めてみましょう。

うがいの容器、洗面道具、湯のみ、水さし、くすり（必要な）、時計、体温計、寒温計、メモ、鉛筆、チリ紙、タオル、ビニールのふろしき、チリかご、新聞紙、呼鈴、便器、尿器、氷枕、氷のう、小箒、電気スタンド、汗しらず、アルコール、バックレスト、とこずれの手当の道具など、その病状に応じて、ぜひ必要なものを、最少限に、適切にそろえることがたいせつです。

特殊な症状に対する看護……ひどい衰弱、意識不明、便秘、せきの発作、呼吸困難、嘔気嘔吐、浮腫、麻痺、痛み、その他これらの症状に対して、家族が不安なく適切に看護をしているか否かをたしかめ、必要時その実施指導をすることがたいせつです。

いずれにしても、患者のすべての点に目を見開いて、問題点や指導上のニーズを適切に見出してゆくならば、限りなく問題はあのだらうと思いま

す。そして、これらの指導に当っては、口先だけでなく、常に身をもって実演し、手をとって教え24時間をまかせられている家族が、それぞれの状況に応じて必要なことがらを身につけ、実行することができるよう励ましてゆくことがたいせつです。

おわりに

医学は日進月歩、すばらしい発展をとげてゆきます。くすりや検査のことなどでも、うっかりしているととり残されてしまいがちです。毎日の仕事の中から、たえず新しい問題を見つけ、新しい医学の動向をキャッチするように勉強してゆかなければなりません。そのためには、いろいろな広報機関の内容に関心をよせると同時に、新しい専門雑誌や書籍にも目を通したり、つとめて研究会に出席したり、臨床面との接触をはかり、知識の吸収と交流に努めてゆくことがたいせつです。毎日毎日ぶつかる小さな問題を、いい加減に片づけないでたいせつに誠意をもってこれに当り、その経験や知識をつみ重ねてゆく地道な努力、また看護技術の熟練、家庭看護に対する興味と情熱をもちつづけることがたいせつだと思います。

（聖路加国際病院 公衆衛生看護部）

■ News

肢体不自由児親子キャンプの1日

——国立埼玉病院で——

日ごろ、家庭にとじこもって外出する機会の少ない肢体不自由児たちに楽しいキャンプ生活をさせてあげたいと、看護関係キャンプ委員会（委員長 平野みどり）と品川区父母の会の協力で、今年も8月11日から3日間、国立埼玉病院（院長 伊藤恭次郎）の構内にある高等看護学院（教務主任 土屋スミヨ）で、ナースや保健、肢体不自由児とその両親など約80人が参加して《肢体不自由児キャンプ》が行なわれた。

キャンプ生活を楽しみながら機能訓練の実を上げることができると、親たちにも喜ばれ、参加者も毎年同じ顔ぶれで、子どもたちは、不自由な手足を動かしてトンボや蝶を追いかけていた。

このキャンプの推進役の渡辺もとえ（都立保健婦助産婦学院長）氏は「キャンプを通して、肢体不自由児のいろいろな問題をつかむことができて有意義だった。これからも、この事業をつづけたい」と、地味な成

果を語っていた。

自費で参加している田端美寿（都立豊島病院）さんは「子どもたちの明るい表情をみると、自分のことのようにうれしい。来年もぜひ参加し



先生と遊ぶ子供たち

たい」と語りながら子どもたちと記念写真を盛んにとっていた。（夏人）

なお、肢体不自由児親子キャンプに関するくわしい報告は「保健婦雑誌」（18巻8号）にくわしく出ております。